

シンフォニアテクノロジー 2024 年度決算説明会 質疑応答(要旨)
(2025 年 5 月 29 日(木))

【回答者】

代表取締役社長 平野新一

Q 半導体関連事業について、2027 年の数値をどのように達成するのか。

A ロードポートについては、中国市場を伸ばすことを想定している。
また、中・後工程についても前工程とは異なるロードポートが必要となる。
システム品は真空ロボットの開発に注力していく。
後工程では、地上搬送に需要があるとみて開発を進めている。

Q システム製品の 2027 年の売上目標の確度や見通しは？

A 長期目線で目標設定は高いが、すでに製造装置メーカー各社から引き合いを頂いており、対応していく。

Q 防衛分野では、300 億円の売上計画が早まったのか。2030 年度は更に増えるのか。

A 防衛関係の受注が大きく増加しており、2027 年には 300 億、さらに 2030 年には 400 億までは想定している。

Q 防衛分野の収益性は。

A これまでは他セグメントを圧迫していたが改善されてきた。今後は政府公表の 15% を目指す。

Q パワーエレクトロニクス機器事業の 2025 年の受注水準が高い背景と、2027 年度までこれが継続する要因は？

A 特に大きく伸びるのは電動力。LNG 用に加え、アンモニア用等の話も立ち上がってきている。ほかには、自動車の EV 開発試験装置については、どのメーカーも積極的に取り組んでいる。

Q 航空宇宙について、生産キャパシティを 2 倍にするが具体的に今のキャパは？

A 現在の生産キャパシティは約 200 億。27 年度には 400 億までキャパアップを計画している。

Q 防衛関連は、上期から利益が出ていたが 25 年度が下期偏重になる可能性は？

A 通常は下期偏重ではあるが、前倒しの要求が多く読み切れない。25 年上期も前倒し要求が多いと想定している。

- Q パワーエレクトロニクス機器の25年度～27年度の受注と売上のバランスについて、崩れている要因を教えてください。
- A パワエレは納期が長い事業であり、受注がすぐ売り上げに直結しにくいいため。
- Q 25年度の当期利益が減益計画だが、今後も継続的に政策保有株の売却を進めていくと理解して良いか。
- A 今後も政策保有株を売却していくが、相手のあることですので売却益は25年度の計画に入れていない。
- Q 24年度のモーション機器セグメントの売上高433億3千万と受注高664億円の内訳は？
- A 売上高は200億弱が航空宇宙、残りがFA電装品。受注は、航空宇宙が約400億、残り約250億がFA電装品。
- Q エンジニアリング&サービスについて。台湾の大手半導体製造メーカーの熊本県の工場への投資状況に変化があった場合の影響は。
- A 影響はあるが限定的です。
- Q パワーエレクトロニクスとエンジニアリング&サービスについて。
今期予想と中計で売上が伸びても利益が伸びない理由は
- A 24年度の利益率が良かった理由は、価格転嫁を受け入れて頂いたことと、自動車試験装置などプロダクトミックスが良かったという2点だが、効果は一巡しており、25年度と中計ではコンサバに見ている。
- Q これ以上、利益率は上がらないということか。
- A パワーエレクトロニクスはレガシーな分野もあるので、今以上の利益率改善にはポートフォリオの入れ替えが必要となる。
- Q 宇宙ロケット用アクチュエータは、民間企業のロケットにも搭載している？
- A 一部提供している。